

朝鮮半島情勢と北朝鮮経済

三村光弘

(ERINA調査研究部)

2014年の朝鮮半島情勢

- 核問題一進展なし
 - 北朝鮮の自由な核開発が継続
 - ただし、核実験や大規模なミサイル実験等はなし
- 全般的な外交関係一特別な改善なし
 - 韓国: 中米間の矛盾への対応に苦慮
 - 北朝鮮: 対外関係どちらかという国内に注力。

2014年の北朝鮮の対外関係

- 米国—「戦略的忍耐」の継続
- 中国—習近平主席の韓国訪問。政冷経暖
- 日本—「ストックホルム合意」に基づく北朝鮮にいる日本人の調査が進行
- ロシア—鉄道近代化工事、農業プロジェクトなどで合意
- 韓国—「5・24措置」継続。アジア大会時の指導幹部派遣など政治的チャンスも生かせず

経済の状況

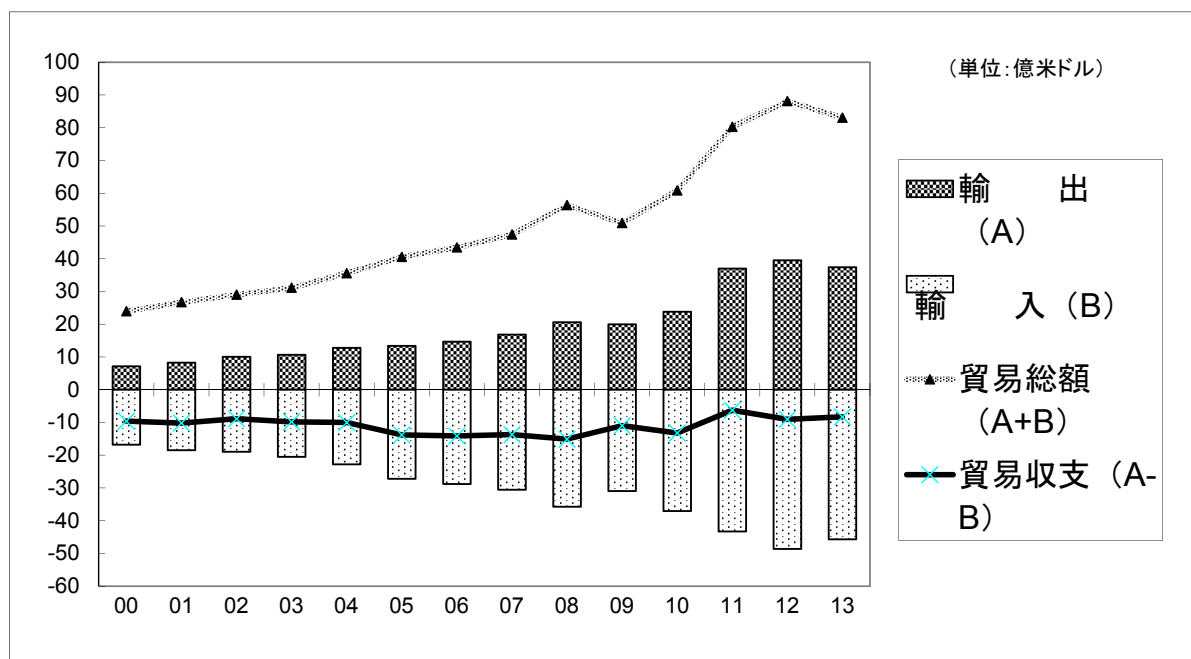
- 国内経済
 - 緩やかな経済の回復が継続
 - 「社会主義企業管理責任制」の導入と生産拡大、効率性向上のための各種施策
 - 現実的発想と経済的刺激の積極的導入
 - 農業:「分組管理制」の徹底と「圃田担当責任制」による社会主義的分配の徹底
 - 工業:国営企業の経営自主権の拡大
- 対外経済—「経済開発区」の増加と海外直接投資誘致への動き

2013/14年の穀物生産量推計(精穀基準)

						(単位:	万トン)
区分	計	コメ	トウモロコシ	豆類	芋類	麦類	雑穀
2013/14年生産量推計	503.1	191.5	224.7	19.6	50.1	10.5	6.6
2012/13年生産量推計	492.2	176.9	228.5	20	44.9	16	5.9
2011/12年生産量推計	465.7	161	203.2	29.4	48.9	18.2	4.9
2010/11年生産量推計	448.4	157.7	168.3	15.4	58.5	24	1.9

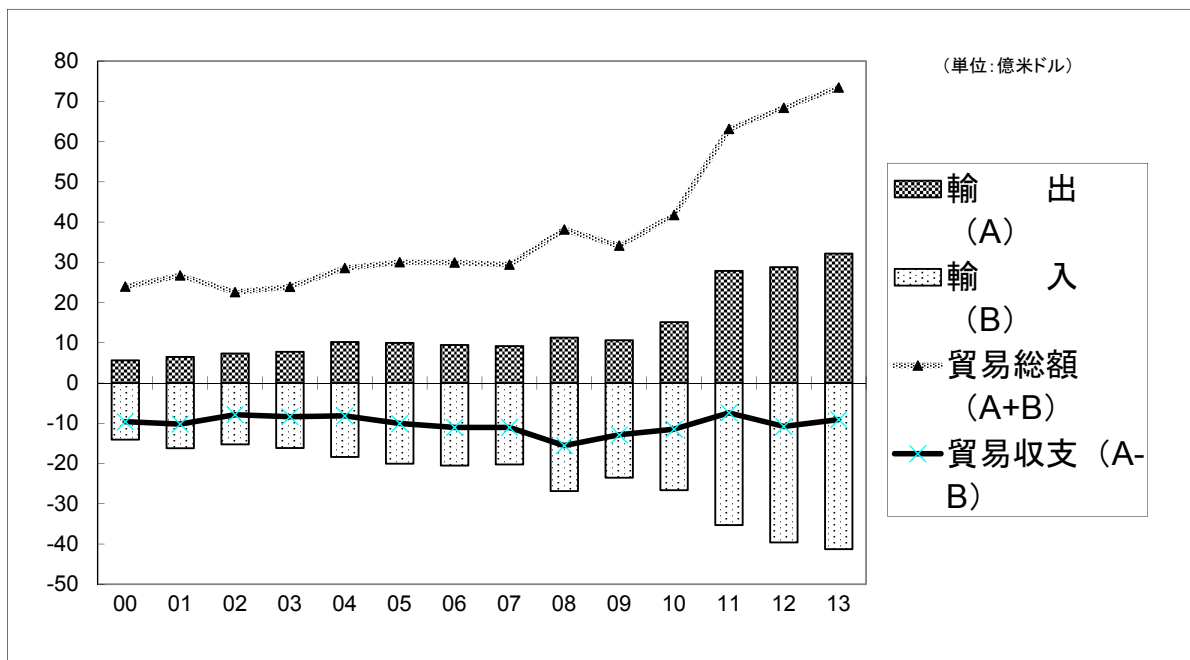
(出所)『KREI北韓農業動向』

貿易収支(南北交易込み)



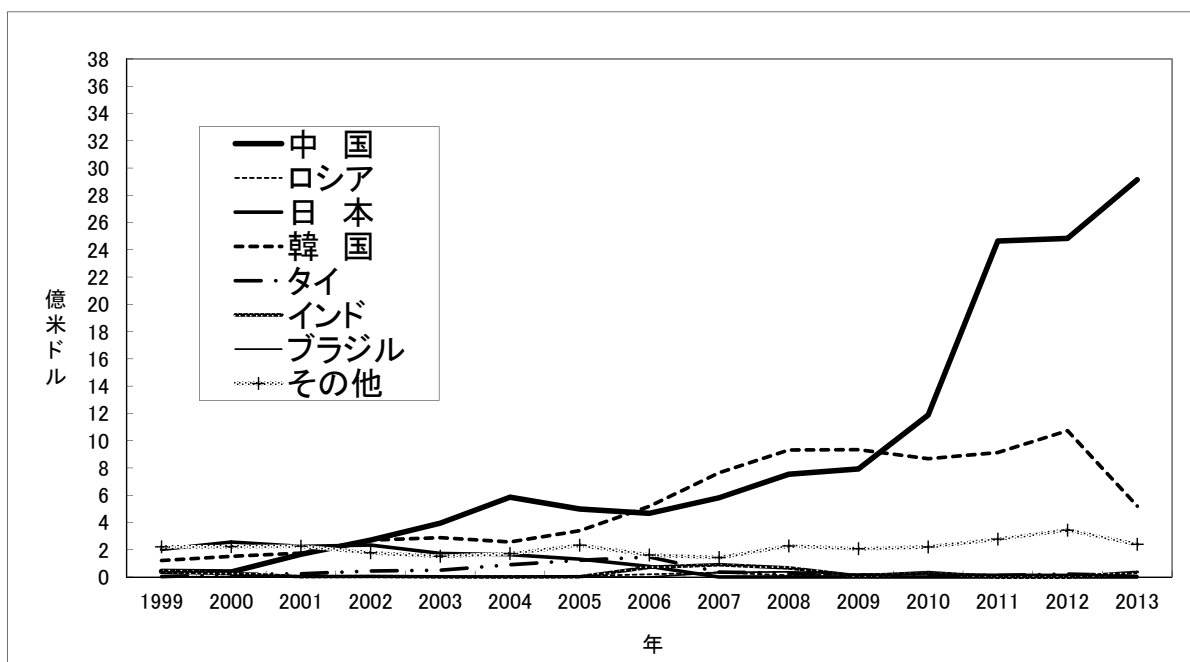
(出所)ERINA『北東アジアデータブック2014』

貿易収支(南北交易抜き)



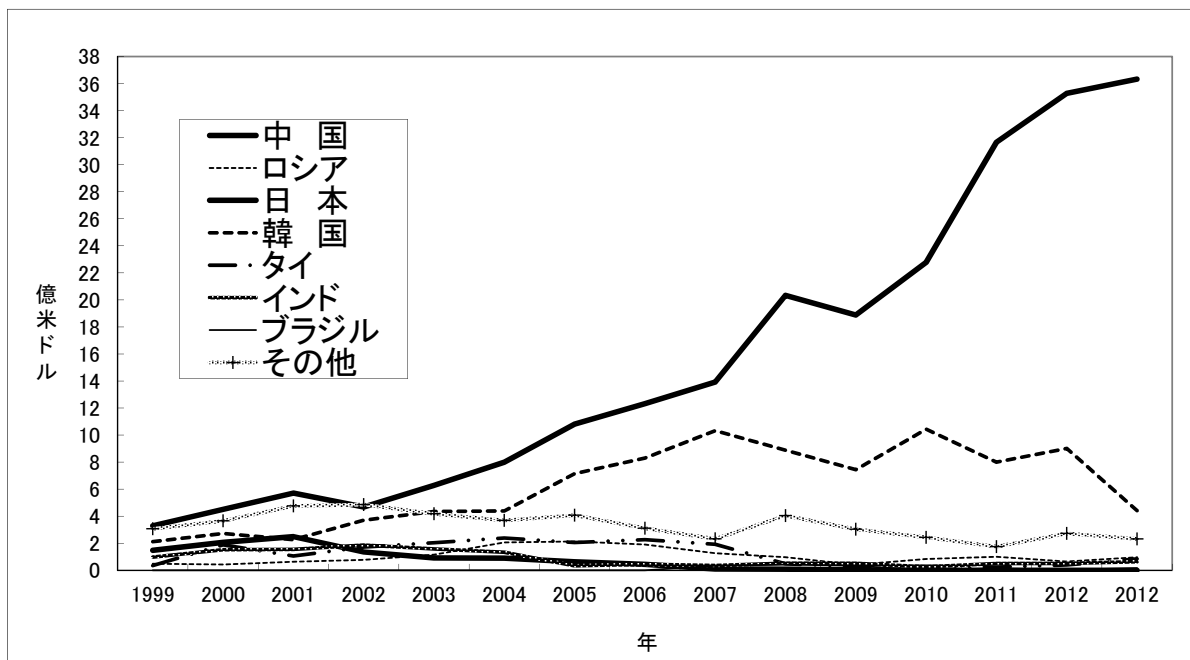
(出所) ERINA『北東アジアデータブック2014』

主要輸出先



(出所) ERINA『北東アジアデータブック2014』

主要輸入元



(出所) ERINA『北東アジアデータブック2014』

今後の動向

- 2015年は日本からの解放70周年、朝鮮労働党結成70周年の記念の年
 - 金正恩第1書記の外交デビューの年になるか
 - 強硬路線よりも現実的な関係改善を追求か
- 「食の問題」の解決は量から質へと内容変化
 - 数年内に量的問題解決にめど
 - タンパク源の確保、微量栄養素を含んだ栄養バランスの改善が次の課題

今後の動向

- 対外関係の改善の鍵は核問題
 - オバマ政権最後の2年で本質的改善なし
 - 次の政権は共和党も民主党も今より強硬
 - 米国との関係改善なき経済成長モデルを作ることができれば、核問題を改善する必要なし
- 対外経済関係は対外関係の改善次第
 - 地方に林立する「経済開発区」は、地方政府の対外開放の実験場＝どちらかということ内向きの論理で設定→将来の飛躍への準備か

今後の経済

- 現実的政策の継続がカギ
 - 「社会主義企業管理責任制」の継続的な進展
 - 非国営部門の黙認の継続と国営部門との関係強化
 - 国営部門による非国営部門の包摂？
 - 国営部門の生存に非国営部門が不可欠に？
- 生産の増加による国民生活の向上と既得権層の不満緩和の両立は成功するか
 - 金正恩時代の「経済改革」の成功の可否はここに

ご清聴ありがとうございました

mimura@erina.or.jp